

流動資産(3)

問題集p.26 棚卸資産②

棚卸減耗損と商品評価損

販売予定の商品を、在庫と言うと思います。在庫中の商品は、その価値が一定であるとは限りません。たとえば、保管中に下に積まれた商品がつぶれて売り物にならなくなったり、商品の鮮度が落ちて売値が下がってしまいます。それを期末時に在庫と、帳簿を確認し、誤差を訂正する作業を**棚卸**といいます。

棚卸減耗損(費用)：売れなくなった商品の個数を計上する。

$$= \text{原価} \times (\text{帳簿棚卸数量} - \text{実地棚卸数量})$$

帳簿上の残高 実際に販売可能な商品の数量

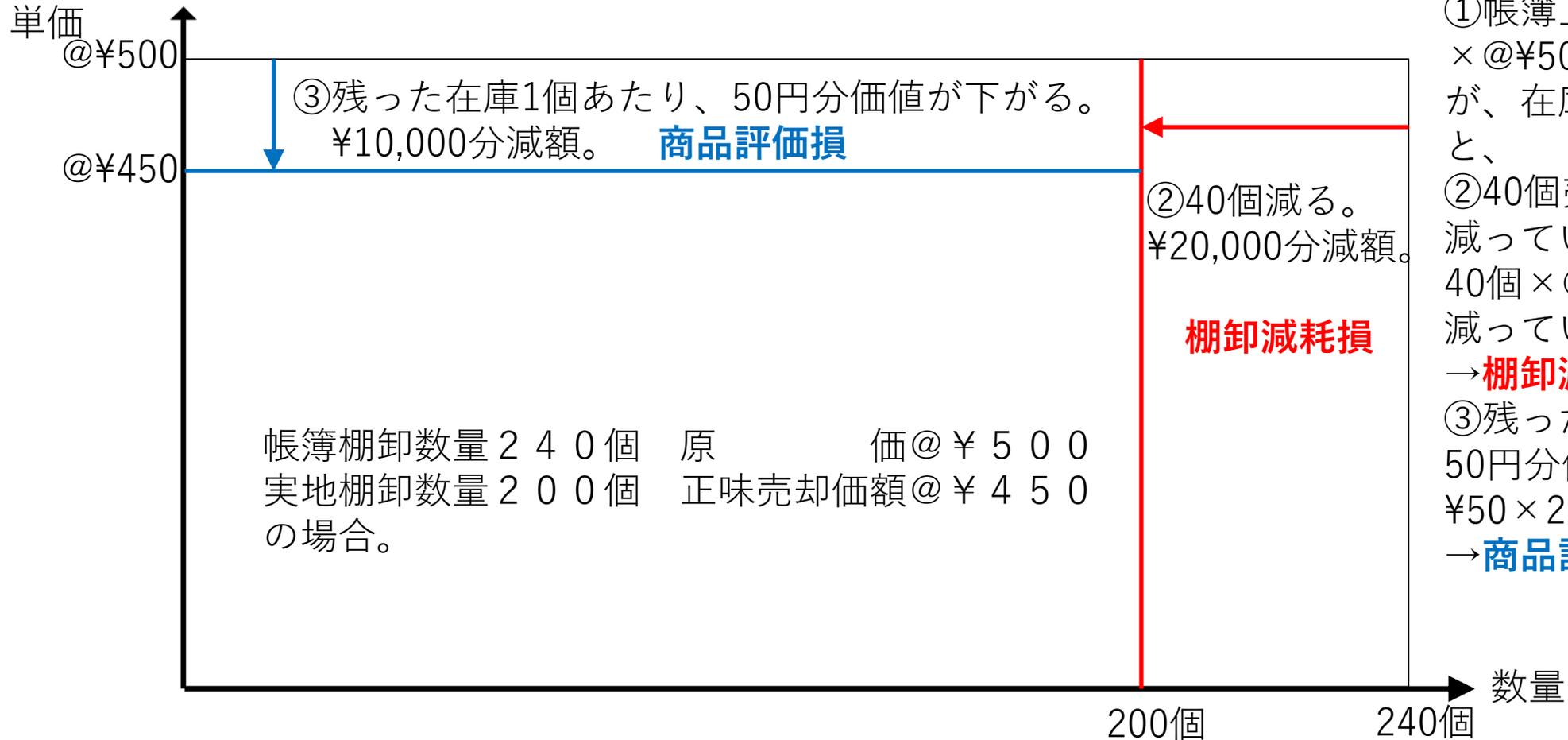
商品評価損(費用)：価値の下がった商品の損失部分を計上する。

$$= (\text{原価} - \text{正味売却価額}) \times \text{実地棚卸数量}$$

仕入れたときの価格 実際に販売可能な価格

棚卸減耗損(費用) := 原価 × (帳簿棚卸数量 - 実地棚卸数量)

商品評価損(費用) := (原価 - 正味売却価額) × 実地棚卸数量 を図に表すと、



- ①帳簿上は、240個 × @¥500 = ¥120,000あるが、在庫を確認してみると、
- ②40個売却可能な商品は減っている。40個 × @500 = ¥20,000減っている。→ **棚卸減耗損**
- ③残った在庫1個あたり、50円分価値が下がる。¥50 × 200個 = ¥10,000 → **商品評価損**

①帳簿上は、 $240\text{個} \times @\text{¥}500 = \text{¥}120,000$ あるが、在庫を確認してみると、

②40個売却可能な商品は減っている。

$40\text{個} \times @500 = \text{¥}20,000$ 減っている。

→**棚卸減耗損**

③残った在庫1個あたり、50円分価値が下がる。

$\text{¥}50 \times 200\text{個} = \text{¥}10,000$

→**商品評価損**

商品の在庫量は、「繰越商品」勘定(資産)で記録されているので、仕訳はこのようになる。

棚卸減耗損	20,000	／	繰越商品	20,000
商品評価損	10,000	／	繰越商品	10,000

この前の仕入/繰越商品…の仕訳で、「繰越商品」勘定を期末(帳簿上の)商品棚卸高に切り替えているのですが、この仕訳を追加することにより、「繰越商品」勘定には、期末(実際の)商品棚卸高に切り替わるのです。

前期繰越		繰越商品	
仕入	期首商品 帳簿上の期末商品	仕入	期首商品
		棚卸減耗費	20,000
		商品評価損	10,000
		次期繰越	実際の期末商品

ちょっと戻って、3級範囲の確認。

忘れているかもしれませんが、この後も出てくるので、重要部分を確認します。
「仕入」勘定(費用)は、商品の出入り(仕入・返品など)の際に利用しますが、もう一つ、
意味があります。

それは、売上原価を計算する勘定科目でもあります。まずは、
仕入 / 繰越商品 (金額は、期首商品棚卸高)
繰越商品 / 仕入 (" 期末商品 ")
は、何のために行っているのでしょうか？

仕 入	
仕入高 × × ×	繰越商品 期末商品の金額
繰越商品 期首商品の金額	

売上原価の計算式は、
売上原価 = 期首商品 + 仕入高 - 期末商品
ですが、仕入勘定の残高を計算すると、この式と一致します。
つまり、
仕入 / 繰越商品
繰越商品 / 仕入
の仕訳転記をすると同時に、仕入勘定で売上原価の計算をすることになります。

「繰越商品」勘定では、通常の仕訳で出てくることはありません。この勘定科目は、決算に必要な期首商品棚卸高を記帳・保存するための勘定科目です。この仕訳を転記することにより、期末(帳簿上の)商品棚卸高(→次期の期首商品棚卸高)に切り替えているのです。

「売上原価の内訳項目」って何？

ここまでやると、次のポイントは「売上原価の内訳項目とする」という文言がいやでも目に入ります。
ここまでの仕訳は、

仕 入 ／ 繰越商品

繰越商品 ／ 仕 入

棚卸減耗損／繰越商品

商品評価損／繰越商品

仕 入 ／ 棚卸減耗損

仕 入 ／ 商品評価損

ですが、棚卸減耗損と商品評価損を

「売上原価の内訳項目とする」場合、追加があります。

「売上原価の内訳項目とする」分だけこの仕訳を追加します。

なぜ、この仕訳を追加するのか？

「3級の復習」でも説明しましたが、「仕入」勘定では、売上原価を計算しています。「売上原価の内訳項目とする」ということは、棚卸減耗損・商品評価損も、含まれます。次のページに、T字を書きます。

なぜ、この仕訳を追加するのか？

「3級の復習」でも説明しましたが、「仕入」勘定では、売上原価を計算しています。「売上原価の内訳項目とする」ということは、棚卸減耗損・商品評価損も、含まれます。

転記することにより、「仕入」勘定に、棚卸減耗損・商品評価損の金額が入り、売上原価に含めることができます。

仕		入	
仕入高	× × ×	繰越商品	期末商品の金額
繰越商品	期首商品の金額		
棚卸減耗費	△△△		
商品評価損	▽▽▽		

「売上原価の内訳項目としない」場合は、どうするのか？

仕入／棚卸減耗損…等をせず、そこで終わりにします。どうするのかは、決算をやりながら説明した方が、頭に入ると思います。念のため、要点の整理□2の表に、印しをつけておいてください。

「売価還元法」は？

要点の整理に書いてある式の通り、例題をしてください。計算問題で出題されることがあるので、テスト・または検定前にもう一度確認します。

練習問題を解く上で、注意すること。

損益計算書			
北陸商事株式会社	令和〇1年4月1日から令和〇2年3月31日まで		(単位:円)
I 売上高		(売上高)	
II 売上原価			
1. 期首商品棚卸高	(期首商品)		
2. 当期商品仕入高	(純仕入高)		
合計	(1 + 2)		
3. 期末商品棚卸高	(期末商品)		
	(合計 - 3)	←帳簿上の売上原価(費用)	
4. 棚卸減耗損	((売上原価に含める)棚卸減耗損)	←上に足す	
5. 商品評価損	((売上原価に含める)商品評価損)	←上に足す	(実際の売上原価)
売上総利益			(売上 - 実際の売上原価)

「売上原価の内訳項目」のものは、ここに入る！(含めないものは別のところに入れる。(問題に書いてある))

足す (+) ・引く (-) 間違うな！